

<戦争放棄>が邪魔の高市さん

山口 洋司

<うおーっ>、通常国会冒頭で高市さんが施政方針演説をした時のことです。

安全保障と憲法改悪に触れたとき、国会の3分の2を占める自民党議席からひととき強い拍手とどよめきのようなものが会場を覆ったのです。テレビを見ていて寒けがしたのはぼくだけではないと思います。その日の夕方テレビのインタビューを受けた参政党の新人議員でさえ、<あの光景、何かぞっとしました>と言うほどでした。

国論を二分する政策を実現させる一、憲法改悪に挑む一、選挙結果を受けて高市さんは異様に挑戦的です。平和憲法に激しく挑戦状をつきつけます。要するに、9条の戦争放棄が邪魔になるのです。

高市政権が真っ先に手をつけたのが武器輸出の全面解禁です。殺傷能力のある武器を生産し事実上歯止めなく輸出する。限りなく戦争への加担です。折しもアメリカのイラン爆撃での銃弾補給が現実味を帯びてきます。日本で生産された銃弾が軍事施設だけでなくイランの学校や生活の場を破壊するのです。

戦後日本が自負してきた平和国家の矜持はどこへゆこうとしているのですか。高市さんは築いてきた平和国家を投げ捨てようとしているのです。自らも豪語しているように国のかたちを大きく変えようとしているのです。

戦争放棄を撤回するという事は国内だけの問題ではありません。他国から見たらアジア太平洋の国際秩序に大きな変革をもたらすことでもあります。

自民党には今や<それはちょっと>と言う人が居なくなっています。かつてなら野中広務さんや古賀誠さんら戦争を知る人がいて、いろいろ問題はあるが9条、戦争の放棄だけは変えたらあかん、とある種の最低の歯止めみたいなものを持っていました。

中国との関係に置いても、意地を張るだけでなく、最低限の関係は持ち合わせ、局面、局面で対応していました。今はどうです。

<国のかたちを変える>、今、まさしく国の危機です。高市政権で平和国家の瓦解を目の当たりにしているのです。自民党の心ある皆さん、3万円のカタログギフトを握り締めて<うおーっ>、とどよめいていいのですか。野党は武器輸出解禁に猛然と反対して反戦平和の声を大にすべきです。<反戦平和>は決して時代おくれのスローガンではありません。若い人たちにも浸透して欲しいものです。

戦争放棄は永遠のわたしたちのスローガンです。

